

2007年8月8日(水)―第3回―

## パルシステム・秋田南部圏食と農推進協議会 生きもの調査

絶滅危惧種のエモリを「放下」する子どもたち



パルシステム全体として初参加

「田んぼの役割を、生きものを通して実感」

里山から染み出す清涼な水に恵まれ、ふゆみずたんぼが2枚続く井上信雄さんの田んぼは、水口に近い上の田のほうが低い「逆田」で、自然に深水になるためヒエは出ません。下の田は、7月に入ってコナギに加えてヒエも出たため、除草機で1回、手取りで2回、草取りをしたそうです。

8月2・3日に水を抜いて干したため、この日の測定では酸化還元電位がプラスになりましたが、井上さんは「草取りで汗がかなり落ちたので値が高いのかも」とユーモアを交えつつ、「昨年よりもずっと収量がよさそうだと手応えを感じていました。」

### 秋田南部圏・JAこまち

産地紹介：2006年6月に「秋田南部圏交流協議会」から「パルシステム・秋田南部圏食と農推進協議会」に改称。8団体で構成（JAこまち、JA秋田ふるさと、湯沢市、横手市、雄勝りんご生産同志会、エルコープ、マイコープ、パルシステム連合会）。JAこまちの組合員は1万1,000人、うち湯沢営農センター管内は2,000人

主な出荷銘柄：あきたこまち、りんご

調査日時：2007年8月8日

参加人数：約60名

主催：パルシステム・秋田南部圏食と農推進協議会

参加団体：パルシステム、湯沢市・農業振興センター

調査地点：湯沢市高松字戸平・ふゆみずたんぼ・無  
無栽培（井上信雄さん）

調査項目：基礎調査、生息環境調査、イトミミズ・  
ユスリカ調査、カエル・魚・草花・昆虫調査

パルシステムでは、産地交流ツアー「産地へ行く！」の一環として「田んぼの生きもの調査」に参加。32名の組合員の親子は、NPO法人田んぼの岩淵成紀氏の「井上さんは米を作っているだけではない。地球温暖化を防止して、イモリやヤマアカガエルの命を育てている」という言葉に心からの拍手を贈っていました。「田んぼを作ることを意味を、生きものを通して、より深く理解することができました」と引率役の小林勢以子さんも感激。特別栽培米の最初期から全国の産地を訪ねてきた佐藤道子さんは「産地の活動は、実際に来て見ないとわからない。一回一回の交流が新鮮」と話していました。



調査地：秋田県湯沢市

秋田南部圏/こまち 第3回調査 2007年8月8日 AM09:40~

|                          |          |           |
|--------------------------|----------|-----------|
| 水田名                      |          | 戸平・ふゆみず   |
| 農法                       | 水管理      | ふゆみずたんぼ   |
|                          | 耕し方      | 耕起        |
|                          | 農薬・化学肥料  | 無・無栽培     |
| 土のなかの生きもの調査<br>(10aあたり匹) | イトミミズ    | 3,687,500 |
|                          | ユスリカ(幼虫) | 625,000   |
| 生息環境調査                   | 天気       | くもり       |
|                          | 気温( )    | 25.4      |
|                          | 水温( )    | 26.1      |
|                          | 水深(cm)   | 4.8       |
|                          | pH(酸度)   | 6.45      |
|                          | EC(mS)   | 0.020     |
|                          | DO(mg/l) | 5.100     |
|                          | ORP(mV)  | 133       |



栽培方法を説明する井上信雄さん



雄勝りんご生産同志会の皆さんの手料理に舌鼓

### 見つけた生きものたち

- ・カエル(匹/100m): ニホンアマガエル 27、ヤマアカガエル 7
- ・草花: カタバミ、母子草、野ポロ菊、血止め草、葛、芹など 27 種類
- ・魚類: ドジョウ 13、イモリ 11、カワニナ 1、マルタニシ 16
- ・トンボ: シオカラトンボ、ノシメトンボ、オニヤンマ
- ・その他: コガムシ、コガシラミズムシ、コミズムシ、ヒメアメンボウ、ドウガネブイブイ、カメムシ、イネミズゾウムシ、ヤサガタアシナガグモ、キバラコモリグモ、キクヅキコモリグモ



シオカラトンボも、たくさん見つかる

## データを読む! 岩淵 成紀氏(NPO 法人田んぼ 理事長)

基礎調査・・・種まきが1箱40gというのは慣行の3割から4分の1くらい。田植えが1㎡当たり165株というのも慣行に比べかなり密度が低い。いずれも深水に耐える丈夫な苗を作るため。牛糞たい肥のほか、抑草を兼ねて米ぬか50kgも投入している。

生息環境調査・・・朝方雨が強く降った影響もあってかpHはやや酸性。ECの値は低く、有機栽培の印。DOが低めなのは測定時間と曇り空の影響だろう。酸化還元電位がプラスなのは中干しをしたため。

イトミミズ・ユスリカ調査・・・餌として食べられるこの時期としてはイトミミズの数が多い。

その他・・・今回、ありとあらゆる生物を観察できたが、これができるのも田んぼの持ち主あってのこと。井上さんは「こんなにたくさんの生きものが私たちを見つめているとは思わなかった」と表現していたが、田んぼは多くの生きものを育てている。